



「善循環の輪質疑応答エッセンス集」(広報担当 大山)

「善循環の輪 ふくいの集い in 敦賀」から ◎EM・3を活用した活性液の強化について
<質問要約>

EM 活性液の強化という意味合いで EM・3 の添加を推奨しておられますが、この点について詳しく教えてください。

<比嘉教授からのコメント>

EM・1 の配合量の半分から同量の EM・3 を添加することで、活性液中の光合成細菌のはたらきが強化されますので、放射能対策においては特に有効です。

他には果実の糖度やビタミン含量を上げたい(果実の充実度の向上)時や、植物の病害虫対策を行うときにも有効ですが、日常的な活用においては贅沢な内容でもあるので、掃除などの生活利用や花壇の管理、環境浄化などにおいては、これまで通りの活性液で十分です。

また、EM・3 を添加していない活性液も強い日光に当て続けると、活性液の色が橙色から濃い赤い色を帯びるようになり、光合成細菌が活性化します。

なお、光合成細菌単独での培養は、pH や雑菌のコントロールが非常に難しいので、上記のように活性液の製造過程で光合成細菌が活性化するような手法を取ってください。

福島県は17日、民間から提案された三つの資材について、土壌中の放射性セシウムの作物への移行を抑える効果を調べ、いずれも有効であると発表しました。「EMオーガグリスシステム標準たい肥」と「厩舎裏灰」は塩化カリウムを上回る効果があり、「微粉ハイポネックス」の効果は塩化カリウムと同等だった。

抑制効果確認
セシウム移行
3資材で福島県

県は放射性セシウムを含んだ土に、3資材と塩化カリウムを別々に混ぜて小松菜を栽培。種をまいて2カ月後に小松菜と土の放射性セシウム濃度を調べた。土に何も混ぜない無処理区も設けた。放射性セシウムが土壌から小松菜に移る割合(移行率)は「厩舎裏灰」が0.0005、「EM堆肥」が0.0007、「微粉ハイポ」が0.0014で、無処理区の4分の1から10分の1にとどまった。塩化カリウムは0.0023だった。

福島県が公募した「農用地等の放射性物質除去・低減技術実証事業の試験」の結果が発表され、マクタアメニティ株式会社が提案していた「EM オーガグリスシステムの標準たい肥」の有効性が確認されました。

県の発表は、5月18日付「日本農業新聞」でも取り上げられましたので、左記の通り添付いたします。

試験の詳しい結果や内容につきましては、福島県のホームページで閲覧することが可能です。

また、EM 処理区の概要につきましては、Web Ecopure の下記 URL でご覧いただけます。

http://www.ecopure.info/topics/topics_082.html

◇◇◇◇◇ 比嘉教授講演会のご案内 ◇◇◇◇◇

◆宮崎県日向市
【日時】6月2日(土) 13:00~ 【場所】日向市中央公民館(大ホール)
【お問い合わせ】日向EM研究会(代表:三浦) 電話:070-5416-2883

◆宮崎県えびの市
【日時】6月3日(日) 13:00~ 【場所】えびの市文化センター(大研究室)
【お問い合わせ】U-net事務局 電話:03-5427-2348

◆福島県郡山市
【日時】6月16日(土) 14:00~ 【場所】福島農業総合センター(多目的ホール)
【お問い合わせ】郡山EMグループ(代表:松本美恵子) 電話:090-9635-6740

◆善循環の輪 愛知の集い in たけとよ(併催「花のまちづくりセミナー」)
【日時】6月23日(土) 10:30~17:00 【場所】ゆめたろうプラザ
【お問い合わせ】U-net事務局 電話:03-5427-2348